

東海丘陵湧水湿地群

～ 春の湿地を楽しむ人たち ～

ユースが全国各地で湿地を取材、魅力を発信！ Youth Research Project

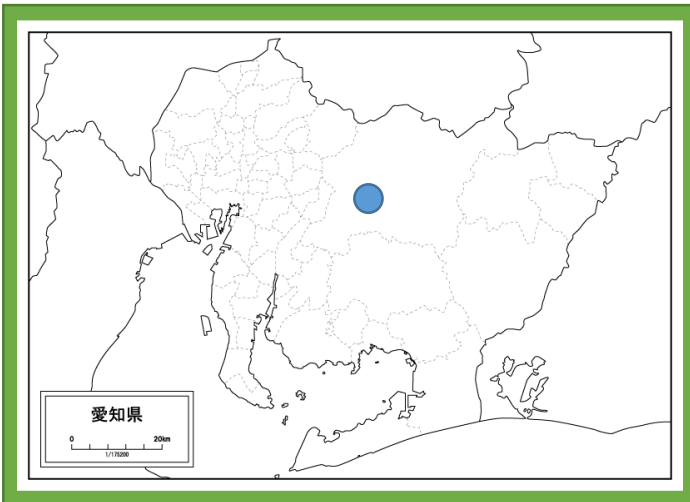
愛知県豊田市にある東海丘陵湧水湿地群は「矢並湿地」「恩真寺湿地」「上高湿地」の3つの湿地が登録されています。それぞれたいへん小さな湿地で、3つの湿地を合わせてもその登録面積は22.5ヘクタールしかありません。しかも、この登録面積には、周囲の集水域の山林まで含まれています。

もともと東海地方の丘陵地には「砂礫層」と呼ばれる、砂や小石からなる地層があり、そこから流れ出している小さな沢筋や染み出した湧き水を源とする小湿地が点在しています。それらの湿地は総じて貧栄養・酸性であり、植物の生育には適さない環境になっています。しかし、そのような特殊な環境だからこそ特有な植物が生育する環境となり、なかには世界中で東海地方にのみ自生している植物も生育しています。それら東海地方に固有、もしくは東海地方を分布の中心とする植物たちを「東海丘陵要素植物群」と呼びます。

上記の3湿地にも東海丘陵要素植物が生育していますが、それぞれ生育している植物に微妙に違いがあります。3つの湿地のラムサール条約に登録されている面積、特徴づける植物は以下のとおりです。

- 矢並湿地 登録面積：5.13ヘクタール
代表する植物：シラタマホシクサ、ミカワシオガマ、ヘビノボラズなど
- 恩真寺湿地 登録面積：11.92ヘクタール
代表する植物：シデコブシ、ヘビノボラズ、ミカワシオガマなど
- 上高湿地 登録面積：5.45ヘクタール
代表する植物：シデコブシ、ヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケなど

今回は、2018年3月25日に、3箇所のうちの矢並湿地と上高湿地を豊田市自然観察の森の川島賢治さんに案内していただくと共に、同日に開催された上高湿地の観察会の参加者の皆さんにインタビューを行いました。



東海丘陵湧水湿地群の位置



矢並湿地を案内してもらう
ユースラムサールジャパンのメンバー

矢並湿地・上高湿地の環境

○矢並湿地

湿地の面積は0.58ヘクタール。周囲の集水域の面積を合わせても5.13ヘクタール。世界で最小クラスのラムサール条約登録湿地です。道路を挟んで西と東と2箇所の湿地があり、共に湿地環境の保護と貴重な植物の盗掘を防ぐためにフェンスに囲まれて立ち入りができないようになっています。特に東湿地は草刈りなどの作業以外での立ち入りが一切できません。一方、西湿地は木道が整備されており毎年10月に5日間の一般公開があります。また、地元の矢並湿地保存会による冬期間の草刈りや、豊田市自然観察の森レンジャーによる毎月の生物調査と見回りが行われています。



木道上から矢並湿地を観察

西湿地の隣には昔の水田跡地があり、いまは湿地環境となっており、所々、深く掘られているところがあり、そこはニホンアカガエルの産卵場として水を溜めているそうです。取材当日には卵から孵ったオタマジャクシを観察することができました。

矢並湿地に流れ込む沢はなく、すべて周囲の集水域の山から染み出す水が溜まったものです。雨が降らない時期が続いても枯れることはないそうです。

○上高湿地

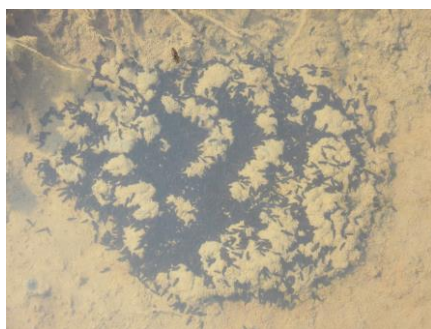
湿地の登録面積は5.45ヘクタール。周囲の集水域の山から流れ出す水が集まるため池が中央にあり、その周囲にシデコブシを中心とした沢筋や、斜面から水が染み出て湿地になった環境など、異なるタイプの湿地が発達しています。また、矢並湿地と比べてミズゴケが発達しているのも特徴です。

それぞれの湿地には地元の上鷹見小学校の子どもたちにより「シデコブシの谷」「トウカイコモウセンゴケの湿地」「シラタマホシクサの湿地」と名前が付けられています。また、矢並湿地と同じく地元のグループである「上高湿地を守る会」により保全活動と整備が行われており、特に日当たりの良い環境を好むシデコブシを保全するための除伐作業（日陰を作ってしまう樹木の伐採）が行われています。

取材当日はシデコブシの花がちょうど咲き始めており、美しいピンクの花を楽しむことができました。



シデコブシの花



ニホンアカガエルのオタマジャクシ



上高湿地を案内してもらう
ユースラムサールジャパンメンバー

上高湿地観察会の参加者にインタビュー

同日に実施されていた「上高湿地観察会」の参加者にインタビューを実施し、人々がどのような意識で湿地環境を観察し、楽しんでいるのかを取材しました。

◆ 60歳代 男性

ユース 観察会に参加して良かった点は何ですか？

男性 上高湿地を見るために参加した。実際に見て、実際に歩いて知ることができるのいいと思いました。

◆ 30歳代 男性

ユース 参加したきっかけは何ですか？参加しての感想はありますか？

男性 子どもの頃から自然観察の森のセンターに通っていて自然が好きになった。上高湿地はそのまま残してほしいと思います。

◆ 60歳代 女性

ユース 参加したきっかけは何ですか？

女性 上高湿地の魅力は、特有の植物（シデコブシ、ハルリンドウなど）が観察することができること。自分が知らない植物を見るために訪れました。

◆ 70歳代 男性

ユース 参加したきっかけは何ですか？

男性 もともと植物が好きだった。矢並湿地の観察会には参加したので、他の2つの湿地にも行ってみたいと思いました。シデコブシの美しさが印象に残りました。

◆ 60歳代 男性

ユース 参加したきっかけは何ですか？参加しての感想はありますか？

男性 もともと野鳥観察が好きで、今回は新聞の情報を見て知りました。湿地は入るのに制限があるけど、維持にはお金も手間ひまもかかる。それがすごく大変だなと思いました。



上高湿地の観察会参加者に
インタビューする
ユースラムサールジャパンメンバー

◆ 40歳代 女性

ユース 参加したきっかけは何ですか？参加しての感想はありますか？
女性 子どもが野鳥が好きで一緒に参加しました。イトトンボやヤマガラ、ドングリなどを観察して楽しかったです。学校外で小学校低学年向けの自然イベントがなかなかないので残念です。

◆ 70歳代 男性

ユース 参加したきっかけは何ですか？参加しての感想はありますか？
男性 分からない植物を知りたくて参加しました。10年後、20年後には湿地は自然になくなってしまおうと聞きました。湿地を大切に残していきたいと思いました。



参加者感想

- いままで見てきた湿地が干潟など「水と土」というものだったので今回の湧水湿地はすごく新鮮だった。水がいまにもなくなりそうなのだが、きちんと森から流れてきて雨が降ったあと、しばらくはそこに水があるというのが興味深かった。（石井花梨）
- 久しぶりに湿地の観察をして、前に来たときよりも歩きやすく工夫されていたり、きれいなシデコブシも見ることができて、豊田の人たちがずっとこの湿地を守っていてすごいなと思いました。はじめての取材で最初は不安だったけど、取材した人もしゃべりやすく、子どもの頃から自然が好きで、今も湿地に来ている人もいたし、湿地をきれいにしたり、のこそうするために毎日がんばっている人もたくさんいることがわかって取材してよかったなと思いました。（浅井萌香）
- 観察会参加者への取材は、初めての取材で緊張したが、参加者の方が優しく答えてくださって安心した。豊田の湿地を訪れる人は、湿地が好きだったり、植物が好きだったりと様々な人がいて、いろいろな分野に興味がある人が訪れる場所であると感じた。（関原菜月）
- 今回の東海丘陵湧水湿地群でのフィールドワークを通して、湿地の個性というのをすごく感じました。矢並湿地や上高湿地は近い位置にありながらも、生えている植物だったり、見られる動物が必ずしも同じというわけではありませんでした。さらに上高湿地の中だけでも場所によってちょっとずつ見える風景が違いました。それぞれの場所が貴重で特異な湿地なので「湿地群」という形で全体を守っていくことは重要なことだと感じました。（富岡知玄）
- 矢並湿地も上高湿地でも、たくさんのめずらしい植物が生育していた。湿地を守るというのにも、希少な生物だけを守るべきなのか、それともその場所の環境を保全すべきなのかをしっかりと考えることができた。（関原涼太）
- 矢並湿地や上高湿地の観察や、上高湿地観察会の参加者への取材を通じて、いろんなことを知ることができました。きれいなシデコブシも見ることができてうれしかったです。（今井まどか）



東海丘陵湧水湿地群への立ち入りについて

東海丘陵湧水湿地群（矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地）は、湿地の保全と希少動植物の保護のため、立ち入りを制限しています。観察の機会としては観察会や、毎年秋に行われる矢並湿地の一般公開があります。詳しくは豊田市自然観察の森（TEL 0565-88-1310）にお問い合わせください。

豊田市自然観察の森へのアクセス

○公共交通機関の場合

- ・「名鉄豊田市駅」東口バス乗り場から「おいでんバス」を利用
「豊田市自然観察の森」下車

○自家用車の場合

- ・東海環状自動車道「豊田環八インターチェンジ」もしくは「豊田松平インターチェンジ」より約15分

ユースリサーチプロジェクト — 東海丘陵湧水湿地群 —

実施：2018年3月25日（発行2019年2月20日）

取材：浅井萌香 石井花梨 今井まどか 佐藤琢磨 関原菜月 関原涼太 富岡知玄

取材・発行：ユースラムサルジャパン TEL/FAX 052-446-8489

E-mail youth.ramsar.japan2015@gmail.com

URL <http://youth-ramsar-japan.jimdo.com/>

Facebook www.facebook.com/youthramsarjapan

